

令和6年度第4回廿日市市保健福祉審議会 児童福祉専門部会 会議録（要旨）

◎概要

開催日時	令和7年3月5日（水）18：30～20：00
開催場所	山崎本社みんなのあいプラザ 2階 健康指導室
出席委員	西川委員、大賀委員、川本委員、樋口委員、宮武委員、田畑委員、奥田委員、平野委員、空田委員、松浦委員
欠席委員	山村委員、眞部委員、井場委員、満井委員
会議内容	1 開会 2 子育て担当部長挨拶 3 議事 （1）第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画（案）について （2）特定教育・保育施設等に係る利用定員（令和7年4月時点）について 4 その他 （1）廿日市市こども計画（仮称）について （2）令和7年度こども・子育て関連予算について 5 閉会
配付資料	・資料1 第3期廿日市市子ども・子育て支援事業計画（案） ・資料2 特定教育・保育施設等に係る利用定員（令和7年4月）について ・資料3 こども計画の策定について ・資料4 令和7年度当初予算案の概要（抜粋）

◎会議内容（要旨）

1. 開会

2. 子育て担当部長挨拶

3. 議事

（1）第3期廿日市子ども・子育て支援事業計画（案）について

事務局	（説明）
委員	みんなの意見が反映された計画になったと感じている。特に、自分が伝えた社会的養護が必要な方の施設のＩＣＴ化の支援や居場所づくりとしてのこども食堂、不登校児童生徒のための子ども相談室のことが盛り込まれており、意見が反映されていると感じる。また、こどもの意見表明など、廿日市市全体でこどもをまんやかに子育てしやすい環境にしていく計画になっていると感じる。子育て世帯が増え、廿日市市に根付く人が増えていけばと思う。微力ではあるが、この計画策定に関わることができて嬉しい。
委員	保育士の確保が一番の課題だと感じている。保育園等の保育士の処遇改善のため、国が人件費を10.7%引き上げたが、障がい福祉関係は蚊帳の外となっていると感じる。障がい福祉関係は、報酬制度があるが、3年に1回の見直しであり、処遇改善も追いついていない。就業先を考えると、会計年度任用職員や民間保育園の時間単価と比較しながら決める方が多く、職員の採用が難しい。障がい福祉関係は利用人数に応じた日割りの計算となっており、コロナやインフルエンザなどで利用がなければ収入がなく、処遇改善も利用がなければ入ってこないため、運営・経営に直結する。 障がい福祉関係の保育士に対しても同様の処遇改善をしてほしい。国の制度が追いつかないのであれば、市独自の補助制度の創設をしていただきたい。
委員	保育士不足が深刻だと捉えている。保育士を確保していくことも重要であるが、一方で人口は減っていく。その中で、どのようにまわしていくかが重要である。その答えは現場にしかないと思うので、現場と引き続き連携していただくことをお願いしたい。保育士がすべきことと保育士でなくてもいいことが混在しているはずであり、改めて、保育士が注力すべきことと外注できることを仕分けることが重要であると考え。 廿日市は暮らしやすいと感じており、これからも住み続けたい。
委員	幼稚園連盟の会議で、会議資料を共有し、この会議の内容を抜粋して説明をした。この会議で議論されている内容は、各園の運営や方針を決

	めていく上で非常に重要な内容を盛り込まれていると感じているが、各園に伝わっていないと感じる。市全体で考えるのであれば保育園、認定こども園、幼稚園、託児所全てに、この計画内容を届ける必要がある。 保育士確保については、しっかり考える必要がある。運営をする側は運営を優先してしまうあまり、職員の心情や事情に寄り添っていない状況がある。ただ職員の言うことばかりを聞いていては運営ができないことも事実である。運営のうまいバランスをとる必要がある。また、働いている人や教育実習で来た学生の口コミなどは出回っており、園の評判に繋がっていることを園は自覚しなければならない。この園ですずっと働き続けたいと思ってもらえる環境を作っていかなければ採用には結びつかない。多少、給与が低くても園長を中心にうまくまわっており、保護者の方とも良好な関係を築け、やりがいを感じ、こどもも成長していける園で、そのことが発信できていけば、必然的に働きたい人が増えてくる。
委員	計画の中に「市の取組みに対するこどもの意見を表明する仕組みづくり」とあり、市がこどもの意見を大事にしようとしているところが現れていると感じた。親の意見だけでなく、こどもの意見を取り入れることは、こどもの主体性につながると感じた。 保育士の処遇改善につながる施策がたくさん盛り込まれており、保育士の確保につながるのではないかと期待している。廿日市市で働きたいと思う人を増やしたい。廿日市市で子育てできて良かったと思えるまちによりなったらいいなと感じた。 表紙は今の家族をよく表している。男性の育児参加も感じられ、廿日市市に合っていると感じた。
委員	先日、県外から入園したいという問い合わせが何件かあった。広島市ではなく、なぜ廿日市市なのか聞くと、子育てがしやすいと聞いたと言われた。市は県外からも注目されていることを自覚したうえで、どう園の魅力を発信していくのか考えた方が良く感じた。
委員	商工会議所は昨年10月、廿日市市と「こどもが主役のまち はつかいち宣言」事業実施に関する連携協定を結び、事業を実施していく予定である。計画書の中では42・43ページあたりが該当する。商工会議所としても子育てしやすいまちとなるよう取り組んでいきたい。
委員	廿日市市労働者評議会は年に1回働く者へのアンケートを取り、市へ要求書を提出している、市から補助金をもらっている団体である。保育に関する要望は多い。以前も話したと思うが、教え子が広島市から廿日市市に勤務先を変え、勤務時間、賃金も満足して働いている。そのような話を聞くと広島市で働いている保育士さんも廿日市市に帰って来られるのではないかと考えている。 いわゆる社会的弱者について多く書いていただいている。貧困を抱えるこどもや病弱なこども、配慮が必要なこどもへの支援は、そのようなこどもだけでなく、こども全体に関わる保育の質と量に大きくつながる

	ものではないかと考えている。
委員	この計画書は様々な方面から廿日市市民を幸せにしたいと伝わるものであり、「みんなで子育てを支える」という表現がいいなと感じた。 人手不足は小中学校も同じ状況であり、教員も多忙である。教師をなぜやりたいと思ったのか若者に聞くと、こどもが好き、教えることが好きと言われた。動機はこどもと向き合いたいことにある。管理職は教員がいかに働き甲斐を感じられる職場にしていけるかということを考えている。先ほど意見があったように、人口も減少していき、人手不足となる中で、どう質を落とさずにやっていくか考えていけないと感じた。
部会長	この計画をどうやって広めていくかが大切である。市のホームページは子育て専用のバナーがないため、子育て関係のページにアクセスできるバナーを作っていただきたい。 コラムがいくつか掲載されているが、そういうトピックスが外国籍の方にも届くようにホームページでの紹介も検討していただきたい。廿日市のインスタグラムをフォローしており、とても魅力的だが、インスタだと流れてしまうので、ホームページがよいと思う。

(2) 特定教育・保育施設等に係る利用定員（令和7年4月時点）について

事務局	(説明)
部会長	質問や意見はあるか。
各委員	(なし)

4. その他

(1) 廿日市市こども計画（仮称）について

事務局	(説明)
委員	こども計画は次世代育成支援行動計画と貧困対策計画の2本柱と考えてよいのか。
事務局	図が分かりづらかったかもしれないが、現在策定している子ども・子育て支援事業計画の中に次世代育成支援行動計画と貧困対策計画が内包されている。こども計画の柱の一つになるかと思うが、子ども・若者計画の要素が加えなければならず、市の取組みとして十分でない領域だと考えている。
委員	子どもの貧困という課題の他に多くの課題がある。今の資料は子どもの貧困対策がこども計画の主要な部分に見え、違和感を感じた。
部会長	第3期子ども・子育て支援事業計画は広島県内の各市町村で策定中である。広島市は、第3期子ども・子育て支援事業計画に若者の要素を加え、「広島市子ども・若者計画」として策定している。東広島市も「東広島市こども計画」として策定している。

	廿日市市は今年度は第3期子ども・子育て支援事業計画をしっかりと作り、努力義務であるこども計画を来年度作っていききたいということによっていか。
事務局	子ども・子育て支援事業計画の中に子どもの貧困対策計画と次世代育成支援行動計画は内包されているが、子どもの貧困対策も十分に計画の中で議論されたものでもない。こども計画を作る中でさらに検討、議論していききたい。こども計画は子ども・子育て支援事業計画が包含される形で策定したいと考えている。
部会長	3ページにあるように、こども計画の対象が30代となっている。結婚支援などの若者支援まで入り、対象年齢が子ども・子育て支援事業計画ではサポートしきれない年齢まで入れていききたいのだと感じた。

(2) 令和7年度子ども・子育て関連予算について

事務局	(説明)
委員	予算の6億というのは、廿日市市の全体予算の何%に該当するのか。広島市より廿日市市に来てもらうためにさらに予算を増やし、アピールの仕方を検討していくことでより良くなると考えている。現在の状況は、積極的に予算をかけているのか、少し押えているのか、状況を見ながらさらに予算をかけようとしているのかといったことを伺いたい。 また、令和7年度の主な取組は市のホームページで掲載をするのか。
事務局	全体予算は640億円弱である。うち、戦略的に子ども・子育て関連に予算が7億円弱が追加でついている。別に、保育園や児童手当のような通常経費等もあり、それは今回の数字には現れていない。子ども・子育て関連予算の総額については、今、持ち合わせていない。 今後必要なものは予算要求していくが、保育士の確保のための応援金等は各市町競争になってきている。額を上げ続けるのは、税金の使い方としてどうかという点も考慮する必要があるため、状況を見て判断していく。 PR等については、新しく立ち上げる子育て支援サイトでしっかりとやっていきたい。
部会長	私が知っている範囲では、廿日市市は予算を丁寧にとっている市町村の一つだと認識している。 例えば、赤ちゃんに絵本をプレゼントするブックスタートという取り組みがあり、広島市は絵本のカatalogを送るのみであるが、廿日市市、海田町、尾道市等7市町では絵本が送られている。絵本を送付していないところを記載することはできないと思うが、絵本が送られている7市町村の一つであるという柔らかなアピールはできるのではないかな。 保育士の確保についてであるが、様々な自治体から各養成校へ実習に係る交通費を払うといった内容や3年間働けば月々の奨学金を無料にするといった案内が多く届いている事実がある。市の税金になるため、

	廿日市市在住の方に使われる方が良いと個人的には考える。I ターンやU ターンをする人向けに募集案内ができればより効果的だと思う。
--	---

4. 閉会